

～「一貫教育校実現に向けての保護者アンケートPart1」の集計結果報告～ 一貫教育校への理解をみんなで一歩ずつ！

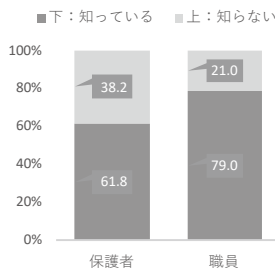
昨年立ち上げた「真鶴町学校建設準備委員会」や「教育を語り合う会」など、議論の場をより充実させるため実施した「一貫教育校実現に向けての保護者アンケートPart1」の集計結果を報告します。

保護者の回収率が62.8%（152家庭/242家庭）ということで、結果すべてを「保護者の意向」と言い切ることはできませんが、現時点での大まかな傾向として貴重なご意見をいただくことができました。ご協力、ありがとうございました。

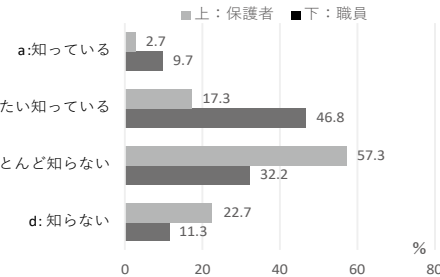
一貫教育校実現に向けての保護者アンケートPart1

- ◎目的：一貫教育校について、現時点での意見を聞き、今後の議論の場をより充実させるため
- ◎対象：幼保小中の保護者（家庭数）と職員
- ◎実施期間：令和5年11月6日（月）～17日（金）
- ◎方法：幼保小中を通じてアンケート用紙を配付・回収、教育委員会で集計
- ◎回収率：保護者62.8%、職員96.9%

問1 開校計画

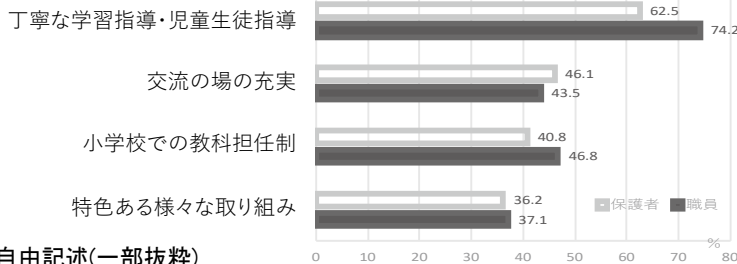


問2 一貫教育校の教育



80%の保護者が、一貫教育校の教育内容を「ほとんど知らない」「知らない」と答えており、開校計画（予定：令和12年4月）を含め、PTA総会など様々な機会を捉えて、今後確実に情報提供を行っていく必要があります。

問3 一貫教育校に期待すること（全体の上位4項目）



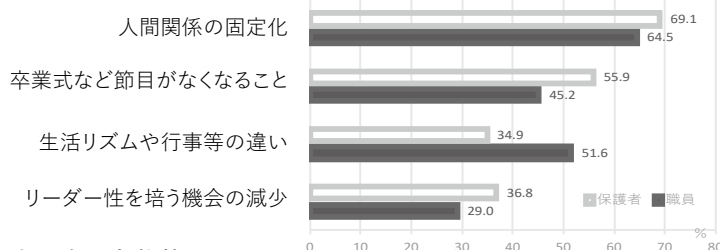
●自由記述（一部抜粋）

【保護者】・地域の人材や学校以外の施設を活用した、特色ある授業の活性化。・先生の人数が増えることで、子どもたちの関わり方にも幅がでる。・コミュニティスクールで多くの価値観に触れられるようになることを期待します。・魅力ある教育を実施することで、子育て世代の移住が促進され、結果としてお友達が増えるといいと思います。

【職員】・職員が共通の目的・目標をもって教育にあたることができる。・意図的に様々な組み合わせの学年グループを作ることができる。・一貫教育で地域の教育力が向上することに期待する。

一貫教育校になることで「丁寧な学習指導・児童生徒指導」がより効果的に行われることを、保護者も職員も期待の一番に挙げています。「クラブ活動・部活動の活性化」への期待は、職員が12.9%であったのに対し、保護者が42.8%と、最も大きな差が見られました。

問4 一貫教育校に不安に思うこと（全体の上位4項目）



●自由記述（一部抜粋）

【保護者】・卒業式がなくなってしまうのは、子どもにとっても親にとっても成長の過程で大事なことなので、違った形でも何か出来ればと思います。・町民により開かれた校舎づくりを目指す場合、子どもたちの安全面をどう確保するか気になります。・変化の少ない環境に慣れすぎてしまうことへの不安があります。色々な変化に触れる事も、この時期必要な体験だと思います。・建設中の期間、どのような環境になるのが不安です。プール、給食など施設環境・体制を含め、不備やがまんがないように要望します。

【職員】・固定化された人間関係になりがちで、学年ブロックの分け方や行事の組み方などを工夫して、デメリット面の解消を図る必要がある。・時間割をつくる難しさ。日課表の小中すりあわせ。・体の大きさの違いもあり、何かの拍子にケガにつながってしまうのではないかと、不安を感じます。

一貫教育校に限らず、集団が小さくなれば生まれやすいことですが、「人間関係の固定化」への不安が、保護者・職員共に最も多いことが分かります。一貫教育校として、学年の節目やリーダー性を培う機会をどう設けるのか、日課や行事などをどう調整するのかが、今後の大きな課題となります。

＝ 集計結果の詳細は二次元コードから ＝
幼保小中別の集計表のほか、問3・問4のすべての項目のデータ・グラフ及び自由記述のまとめをご覧くださいことができます。

